

2004年11月から2009年10月までに当院に入院されて  
発症から3時間以内の内頸動脈系脳梗塞と診断された患者さんへのお知らせ

「超急性期脳梗塞例に対するDWI-ASPECTSの有用性に関する研究」に関する情報開示

平成24年〇月〇日

川崎医科大学附属病院

脳卒中科 井口 保之

CTは脳梗塞において最も広く用いられる画像検査です。DWIはCTより早期に虚血による障害を検出できるとされています。血栓溶解療法など脳梗塞急性期治療の予後には脳梗塞の範囲が関与するため、治療前に脳梗塞の大きさを正確に判定することは重要です。脳梗塞の範囲を客観的に評価する方法としてASPECTS法がひろく利用されています。しかし、発症3時間以内の脳梗塞例において、CT-ASPECTSとDWI-ASPECTSの虚血検出率に関して直接比較した研究はありません。そこで、当院に入院された発症3時間以内の内頸動脈系脳梗塞患者さんの入院時画像検査を調査し、CT-ASPECTSとDWI-ASPECTSの相関に関して後方視的調査研究を実施することにいたしました。

具体的には2004年11月から2009年10月までに当院に入院された発症3時間以内の内頸動脈系の脳梗塞の患者さんを対象としております。診療で得られた入院時CTとMRIの相関を調べます。この研究で得られた内容を学会や科学雑誌で公表することについてご理解とご協力を賜りたく存じます。患者さんの情報については個人名や個人を特定できるデータは伏せており、当院の個人情報保護規定に従って厳密に管理し、第三者が閲覧することはありません。また、この研究で患者さんは不利益を被ることはないと考えております。なお本研究は当院倫理委員会の承認を得ており、利益相反はありません。この研究に対して、ご質問がある方は、下記担当者までご連絡ください。

担当： 川崎医科大学附属病院 脳卒中科 井口 保之

岡山県倉敷市松島 577 TEL：086-462-1111

FAX：086-464-1128